

## (5) 中富健康科学振興賞（交付金額:200万円）

平成28年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	相澤 好治（あいざわ よしはる）、生年月日：1946年4月7日
推薦学会	日本公衆衛生学会
現職及び略歴	<p>（学歴及び職歴）</p> <p>昭和50年 3月 慶應義塾大学大学院医学研究科修了</p> <p>昭和50年 4月 慶應義塾大学医学部特別研究員（内科学）</p> <p>昭和50年 7月 米国ブラウン大学医学部臨床研究員－臨床腫瘍学・臨床免疫学</p> <p>昭和53年 4月 慶應義塾大学医学部助手（内科学）</p> <p>昭和55年 4月 北里大学医学部講師（衛生学・公衆衛生学）</p> <p>昭和58年10月 北里大学医学部助教授（衛生学・公衆衛生学）</p> <p>平成 6年 4月 北里大学医学部教授（衛生学・公衆衛生学）</p> <p>平成18年 7月 北里大学医学部長</p> <p>平成21年 7月 北里大学副学長</p> <p>平成22年 7月 北里研究所常任理事</p> <p>平成24年 4月～ 北里大学名誉教授</p> <p>平成24年11月～ （一社）日本繊維状物質研究協会 理事長</p>
主な学会活動	<p>平成11年 9月 日本公衆衛生学会理事</p> <p>平成20年 8月～ 日本公衆衛生学会監事</p> <p>平成18年10月 日本学術会議連携会員</p> <p>平成24年 4月 日本医学会幹事</p>
主な社会活動	<p>平成 6年10月 厚生労働省 中央じん肺診査医</p> <p>平成14年 4月～ 厚生労働省 中央労災医員（非常勤）</p> <p>平成15年 7月 厚生労働省 医道審議会専門委員</p> <p>平成21年11月 厚生労働省 安全衛生分科会長</p> <p>平成21年 4月 厚生労働省 労働政策審議会じん肺部会長</p> <p>平成27年 2月～ 環境省 中央環境審議会環境保健部会長</p> <p>平成22年 7月～ （一社）日本労働安全衛生コンサルタント会 会長</p> <p>平成25年 4月～ 日本医師会 産業保健委員会委員長</p> <p>平成26年 7月 厚生労働省「ストレスチェック項目等に関する専門検討会」座長</p>
主な受賞等	<p>平成19年 3月 第9回日本衛生学会学会賞</p> <p>平成20年 7月 厚生労働大臣表彰功労賞</p>
主な業績	著書148編、原著論文166編、総説等161編、報告書320編、学会発表：シンポジウム等69回、一般発表641回（専門領域：労働衛生、中毒学、健康管理学）

## (5) 中富健康科学振興賞（交付金額:200万円）

平成28年度 中富健康科学振興賞 受賞者履歴	
氏名	橋本 公二（はしもと こうじ）、生年月日：1946年2月24日
推薦学会	公益社団法人日本皮膚科学会
現職及び略歴	<p>（学歴及び職歴）</p> <p>昭和45年 3月 大阪大学医学部卒業</p> <p>昭和45年 6月 大阪大学医学部附属病院・医員</p> <p>昭和51年 9月 大阪大学医学部皮膚科・助手</p> <p>昭和55年 1月 米国Duke大学皮膚科学教室（Lazarus教授）へ留学</p> <p>昭和60年 7月 米国Pennsylvania大学皮膚科学教室（Lazarus教授）へ留学</p> <p>昭和63年11月 大阪大学医学部皮膚科・講師</p> <p>平成元年10月 同・助教授</p> <p>平成 7年 4月 愛媛大学医学部皮膚科・教授</p> <p>平成12年 4月 愛媛大学学長補佐</p> <p>平成16年 4月 愛媛大学・医学科長</p> <p>平成17年 3月 愛媛大学・医学部長</p> <p>平成18年 4月 愛媛大学大学院医学系研究科長</p> <p>平成23年 4月 愛媛大学先端研究・学術推進機構学術企画室 特命教授</p> <p>平成23年 4月 愛媛大学名誉教授</p> <p>平成26年 4月 愛媛県立医療技術大学 理事長・学長 現在に至る</p>
日本皮膚科学会における役職	<p>代議員（平成8年～平成14年）</p> <p>理事（平成14年～平成18年、平成22年～平成24年）</p> <p>副理事長（平成18年～平成20年）</p> <p>理事長（平成20年～平成22年）</p> <p>名誉会員（平成28年～）</p>
その他の学会での役職	<p>日本研究皮膚科学会</p> <p>平成8年 理事、平成13年 事務総長、平成14年 理事長</p>
厚生労働省等研究班代表者歴など	<p>2001～2003年度 難治性皮膚疾患に対する自己培養皮膚移植法の開発に関する研究</p> <p>2001年度 Stevens-Johnson症候群、toxic epidermal necrolysis (TEN)と hypersensitivity syndromeの診断基準および治療指針の研究</p> <p>2004～2006年度 難治性皮膚疾患（重症多形滲出性紅斑（急性期）を含む）の画期的治療法に関する研究</p> <p>2007～2009年度 重症多形滲出性紅斑に関する調査研究</p> <p>2008年度 創傷治療に被覆材、組織接着剤、止血剤としての新規医療薬品の開発研究</p>
受賞歴	<p>平成20年 1月 財団法人日本リディアオリリー協会 第22回安田・阪本記念賞</p> <p>平成24年 4月 第1回マルホ賞</p>
主な業績	<p>英文原著 181編</p> <p><u>Hashimoto K.</u> et al. Anti-cell surface pemphigus autoantibody stimulates plasminogen activator activity of human epidermal cells:A mechanism for the loss of epidermal cohesion and blister formation. J Exp Med. 1983;57:259-272.</p>